



インタビュー
Interview

輝いている人
プラスの言葉を大切に
幸せな人生を歩んでいきたい

昨年7月31日から8月6日まで和歌山県で開催された、第45回全国高等学校総合文化祭「紀の国わかやま総文2021」。弁論部門に出場し優秀賞を受賞したのが、高梁城南高校3年の藤井アケミさんだ。

大会で弁論の演題として選んだのは、「自分の言葉が人生をつくる」ということから教わった言葉。自分の言葉が周りの環境を変えていくという意味が込められていて、日本での生活の中でその言葉の大切さを実感したという。

藤井さんは、富山県でブラジル人と日系ブラジル人の両親の間に生まれた。両親は日本語がほとんど話せず、苦労する姿を見ていたという。自身は幼いころに少しずつ日本語を身に付けてきたが、小学校で日本人の同級生に話し掛けても距離を

置かれるなど、言葉の壁に悩む場面は多かったそうだ。転機が訪れたのは、小学4年生の春。父親の仕事の都合で、総社市に転居が決まった。転校先では、周りからたくさん声を掛けられ、「人気者になった気分です、自然に会話ができた。私自身も明るく話すようになり、友人が増えていった」と振り返る。「日本人と接するの言葉を使うと周りの雰囲気は、周りや自分が幸せな人生を歩めるように、プラスの言葉を選ぶことを心掛けています」と教えてくれた。

将来の夢を尋ねると、「子どもに尊敬される母のようになりたい」と話す。いつも前向きな彼女なら、すてきな家庭を築いてくれるだろう。

藤井 アケミさん (門田)

第45回全国高等学校総合文化祭弁論部門で優秀賞を受賞した

東西の文化のつながりを鑑賞

森コレクション展Ⅲ (後期)

総社吉備路文化館で「森コレクション展Ⅲ (後期) ~装飾でつながる東と西、そして“それから”~」が開催されています。1月23日に行われたギャラリートークでは、学芸員が展示作品を紹介しながら、日本と西洋の絵画が互いに与えている影響について解説。参加者は興味深そうに耳を傾けていました。同展示の会期は、3月6日(日)までです。



学芸員が作品を丁寧に解説 (写真上)
作品に見入る来館者 (写真左)

●ミニフォト

亀山さん 100歳おめでとう



家族に祝福される亀山さん

2月10日、亀山きよ子さん(中央五丁目)が満100歳の誕生日を迎えられ、市から記念品が贈呈されました。社交的な性格で、長年ボランティア活動を行っていたという亀山さん。長寿の秘訣は、よく食べることだそうです。

飯間さん 100歳おめでとう



家族に祝福される飯間さん

飯間博江さん(上林)が2月12日に満100歳の誕生日を迎えられ、市から記念品が贈呈されました。90歳を過ぎてからも手芸で福袋などを作っていたという飯間さん。長寿の秘訣は、好き嫌いをしないことだそうです。

守安さん 100歳おめでとう



家族に祝福される守安さん

2月7日に守安賢一さん(東阿曾)が満100歳の誕生日を迎えられ、12日に市から記念品が贈呈されました。天気が良い日には家の周囲を散歩しているという守安さん。長寿の秘訣は、定期的に健康診断を受けることだそうです。

自分の輝ける場所を探す



プラスごとに話を聞く参加者

1月28日、障がい者の自立・就労支援を目的に、総合福祉センターで障がい者ワークわくそうじゃ就職面接会が開催されました。53人が参加し、企業や事業所の説明などを熱心に聞いていました。

商品を通して社会とつながる



希望の商品を手取る

障がい者就労継続支援事業所が製作した商品の販売を促進するため2月2日、宮脇書店総社店に販売ブース「そうじゃてのひらマルシェ」がオープン。訪れた人は限定品などを買い求めていました。ブースは3月6日(日)までです。

食料を必要な人へ届ける



家庭で眠る食品を寄付

順正学園の子ども支援事業「順正デリシャスフードキッズクラブ」が、2月7日から25日までフードドライブを実施。市役所玄関に設置したコーナーに、インスタントカレーや缶詰めなどが集まりました。